

## 次期計画の策定方針(案)

第三次瑞浪市環境基本計画の策定方針を検討・整理しました。計画の目次構成案と施策体系案について示します。

### (1) 次期計画の目次構成案

現行計画		次期計画	
序章	瑞浪市環境基本計画のあらまし 序.1 環境基本計画策定の背景 序.2 環境基本計画の性格と役割 序.3 計画期間と目標年次 序.4 環境基本計画の対象 序.5 環境基本計画の評価	第1章	計画策定について 1 計画策定の背景・目的 2 計画の基本的事項 (1) 計画の性格と役割 (2) 計画期間と目標年次 (3) 計画の対象 (4) 前計画の評価
第1章	環境の保全と創出に向けた課題等の整理 1.1 自然環境 1.2 社会環境 1.3 生活環境 1.4 エネルギー利用・循環・保全活動 1.5 市民・事業者の意識 1.6 地区別の現状と課題	第2章	瑞浪市の環境の特徴と課題 1 瑞浪市の環境の特徴 2 市民・事業者の意識 3 瑞浪市が特に取り組むべき課題
第2章	望ましい環境像と環境基本目標の設定 2.1 望ましい環境像 2.2 環境基本目標設定への背景 2.3 環境基本目標	第3章	望ましい環境像と環境基本目標 1 望ましい環境像 2 環境目標
第3章	環境の保全と創出への施策体系 3.1 施策の体系 3.2 4つの基本目標を実現するための施策	第4章	環境の保全と創出に向けた各主体の取り組み 1 施策の体系 2 各主体の取組 自然環境 生活環境 快適環境 環境保全に取り組む基盤づくり 3 進捗管理指標一覧
		第5章	地球温暖化対策実行計画 ー区域施策編ー 1 温室効果ガス排出量の現状と課題 2 温室効果ガス排出量の削減目標 3 地球温暖化対策の取組
		第6章	地球温暖化対策実行計画 ー事務事業編ー 1 温室効果ガス排出量の現状と課題 2 温室効果ガス排出量の削減目標 3 地球温暖化対策の取組
第4章	計画の推進・進行管理の策定 4.1 計画の推進 4.2 推進体制 4.3 進行管理 4.4 計画の見直し	第7章	計画の推進・進行管理 1 計画の推進 2 推進体制 3 進行管理 4 計画の見直し

昨年度会議で審議

地球温暖化対策実行計画

## (2) 施策体系案

	【基本理念・基本目標】	【基本施策】	【主な施策例】	
環境 像	<b>基本理念1</b> <u>自然と共に生き発展する</u> <b>基本目標1</b> 森林や里山、農地を適切に管理・活用することで豊かな自然と多様性を確保します	① 里山と水循環の保全と活用 ② 食と生命を支える農地の保全と修復 ③ 生物多様性の保全と創出 ④ 人と自然のふれあいの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>清流の国ぎふ森林・環境税や補助事業等を活用した間伐等の整備、森林整備計画に基づく取組促進</li> <li>ほ場整備や農地集積の促進等による生産性の効率化、担い手の育成、環境保全型農業の促進</li> <li>希少生物の保全、鳥獣被害防止計画に基づく加害鳥獣の駆除</li> <li>河川改修・整備による治水安全性の確保、交流エリアの整備・保全</li> </ul>	重点 的 に 進 め る 取 り 組 み
	<b>基本理念2</b> <u>健やかな暮らしを創造する</u> <b>基本目標2</b> 日常生活や事業活動における環境配慮と資源の有効利用を通して身近な生活環境を維持します	① 循環型社会づくりの推進 ② 水質浄化対策の推進 ③ 健全な生活環境の保全対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの4R活動を通じたごみの減量化、資源循環の推進</li> <li>公共下水道及び農業集落排水の整備、接続率の向上</li> <li>大気、水質、騒音等の環境測定とモニタリング・公表</li> <li>野焼きの防止、悪臭対策等の産業と生活環境維持の両立</li> </ul>	
	<b>基本理念3</b> <u>歴史文化に学び活用する</u> <b>基本目標3</b> 身近な緑を創出とマナーの順守、歴史・文化を継承し、誇れるまちづくりを進めます	① 瑞浪市らしい歴史・文化的環境の保全と活用 ② 快適な都市環境の創出 ③ 美しい郷土景観の保全と創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財や歴史的財産の保全と活用機会の創出</li> <li>空き家等対策計画に基づく空き家等の対策推進</li> <li>地域特性に応じた公園の整備、公園の活用促進と適切な管理</li> <li>景観計画重点区域の指定による住民全体による景観づくり</li> </ul>	
	<b>基本理念4</b> <u>脱炭素化を加速する</u> <b>基本目標4</b> 高効率化による省エネと再エネ導入・活用を通じて、地球温暖化対策と暮らしの利便性・事業の生産性向上の両立を図ります	① 省エネルギー活動の促進 ② 次世代エネルギーの活用 ③ グリーンカーボンの活用 ④ みんなで取り組む体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、事業者の省エネルギー活動の促進、環境にやさしい移動の普及促進、省資源化と循環利用の促進</li> <li>市内への次世代エネルギーの導入と市外からの再生可能エネルギーの調達</li> <li>森林整備による吸収源対策の促進、緑化の推進</li> <li>環境教育・環境学習、各主体の温暖化対策の促進</li> </ul>	
	<b>基本理念5</b> <u>全員が主役になる</u> <b>基本目標5</b> 誰もが環境教育・環境学習を受けられる機会の創出と各主体が協力した仕組みづくりを行い、参加と協働を促進します	① 行政と市民との協働体制の整備 ② 環境教育・体験学習の推進 ③ 事業所の環境保全意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境フェアみずなみや環境に関する出前講座の開催を通じた市民の環境意識の向上</li> <li>スーパーエコスクールの水平展開や体験学習等の環境教育・学習の機会創出</li> <li>商工会議所と連携した環境保全、カーボンニュートラルの取組の情報提供、小規模事業者の支援の推進</li> </ul>	

### (3) 重点事業について

環境施策の中から優先的に着手し推進することが望ましい施策について、具体的な重点事業として抽出し、先導的に取組を実践していくことで、計画全体のスピード感を高めることを目指します。

### (4) 重点事業の考え方

重点事業の検討の視点について整理しました。

※具体的な重点事業に関する協議は、次回以降の環境審議会において予定しています

#### 【重点事業検討の視点】

#### ① 特に優先度や緊急度が高いと考えられる取組

農地・森林保全や水質保全などの瑞浪市の環境課題、脱炭素化や再生可能エネルギー等の社会的要請へ寄与する取組

#### ② 発展的な取組

市民・事業者の関心を集め日常生活・事業活動への波及や、重点事業をきっかけとして進展が期待できる取組

#### ③ 各主体との協働による取組

市民・事業者を巻き込んだ、多くの主体の参加と連携により推進する取組

#### ④ 瑞浪市らしい取組

豊かな自然環境や瑞浪市の風土、歴史文化等、瑞浪市の魅力を引き出す取組

#### 【重点事業の例と検討の視点】

重点事業の例	検討の視点			
	①	②	③	④
<b>I 市民・事業者・観光客が巻き込んだ里山再生プロジェクト</b> (市内の農林業体験や体験型の環境教育・学習のパッケージ化 など) ⇒瑞浪市のシンボルであり、かつ緊急度が高い農地・森林の保全に対して、市民・事業者が一体となって取り組みます。さらに、生態系の保全や森林クレジット*などの進展を目指します。	●	●	●	●
<b>II グリーンライフ21プロジェクトの拡大</b> (市民・事業者からの回収プロセスの構築、Re-食器の普及促進 など) ⇒地場産業である窯業産業における資源循環・脱炭素の取組を瑞浪市全体で推進します。窯業産業やその他の産業への波及を目指します。	●	●	●	●
<b>III 再生可能エネルギーの導入促進</b> (促進区域の検討、地域新電力の設立 など) ⇒ゼロカーボンシティの実現に向けて、再エネ設備の導入を推進するとともに、市民・事業者が広く再エネを使用できる環境を整備し、再エネの活用拡大を目指します。	●	●	●	
<b>IV スーパーエコスクールの取組の水平展開</b> (見学会・体験学習への活用、他校への環境教育・学習の仕組みの展開 など) ⇒瑞浪市の風土を活かした先進的な環境保全の取組を共有し、市全体の環境教育の推進を目指します。	●	●		●

※森林クレジット：間伐などの森林の適切な管理を行うことによるCO2吸収量をクレジットとして国が認証したもの。森林の適切な管理(施業)を継続的に行うことには経済的な負担が伴うため、施業により生まれたクレジットを購入することで、さらなる施業を促すことにつながる

(J-クレジット制度ウェブサイトより)

【参考】グリーンライフ21プロジェクト



資料:小田陶器株式会社ウェブサイト

図 回収から Re-食器ができるまで



## 【参考】基礎調査を踏まえた策定方針のまとめ

第三次瑞浪市環境基本計画策定に向けた基礎調査結果(瑞浪市の環境状況、市民・事業者アンケート調査、現行計画の進捗評価、上位計画の整理、全国的な環境情勢の把握)等を踏まえて、瑞浪市が特に取り組むべき課題及び次期計画策定に向けた策定方針について、まとめました。

環境分野	瑞浪市の環境特徴 [○:良い点・誇れる点、△:改善すべき点]			上位計画・社会情勢	課題	策定方針案
	環境状況 (既存文献調査結果)	市民・事業者アンケート調査	環境審議会委員意見			
1)自然環境 農地・里山・森林・ 河川・水辺・動物 植物・自然景 観・自然とのふ れあい など	<p>○ 本市の約7割に森林が占めており、屏風山を背景に田園が広がるのどかで美しい農村景観</p> <p>○ ヒトツバタゴやハナノキなど、天然記念物に指定される希少植物の自生地</p> <p>○ ネコギギ、オオサンショウウオなど絶滅危惧種に指定される希少生物の生息空間</p> <p>○ 飛騨木曾川国定公園をはじめ、竜吟峡や鬼岩公園、瑞浪市自然ふれあい館など、自然公園や体験施設等の自然とのふれあえる場の充実</p> <p>△ 農業就業人口の減少や高齢化による耕作放棄地の増加への対策</p> <p>△ 林業従事者数の減少による山林の保全の困難化への対策</p>	<p>○ 里山や田園、山並みなどの自然景観に対して、最も多くの市民が本市の素晴らしい点と評価</p> <p>○ 自然の景色の美しさについて、約6割の市民が満足と回答</p> <p>△ 川や沼などの水辺のきれいさに対する改善の必要性</p> <p>※不満足と回答した市民が約23%</p>	<p>○ 森林が豊かな景観資源保つために、継続的なメンテナンスが必要</p> <p>○ 化石採集は人気が高い。周辺施設の充実や、化石博物館の改修により、更に魅力的な場所になる</p> <p>△ 小規模農業は機械導入が難しく肥料も高いため、採算が取れない</p> <p>△ 管理が不十分な荒れた山林が多い。責任感欠如と管理費用未払い</p> <p>△ イノシシやシカが増加し、農作物被害や山ヒルが増加している駆除や柵の補助金支援が必要</p> <p>△ 除草剤使用による環境悪化</p> <p>△ 木材価格が低迷している</p> <p>△ 環境税の森林率の高い市町村の充実によって、利用干ばつの促進と景観林の整備を行う</p> <p>△ 農業・林業就業者の減少の中で、自然保護をするためには市民の自主性を促進する方法が必要</p> <p>△ 森林資源の活用が必要。CO2吸収源として重要であるため、林業従事者の減少を食い止めることで、管理・整備をする必要がある</p> <p>△ 土岐川水系の護岸復旧工事では生物が住みづらい状況が生じている。特区を設けて生物保護が必要</p> <p>△ 直売所の地元野菜出荷・販売が少なく、消費者も安い方を選択する。専業農家が少ないため、農林課やJAと連携し「安心・安全」な野菜づくりの農家育成が必要</p>	<p>・ 生物多様性国家戦略 2012-2020 に基づく総合的かつ計画的な施策の推進</p> <p>・ 森林整備に不可欠な林道などの施設の機能維持</p> <p>・ 清流の国ぎふ森林・環境税を活用した森林環境を保全</p> <p>・ 地域の生態系を保全する取組の推進</p> <p>・ ほ場整備や農地集積の促進、生産性の効率化の推進</p> <p>・ 担い手の育成を推進</p> <p>・ 耕作放棄地の解消や遊休農地の保全</p> <p>・ 集中豪雨などに伴う浸水被害を防ぐことを目的とした河川改修工事の整備促進</p> <p>・ 自然に親しむネイチャー体験ゾーン(交流エリア)として一体的な整備・保全</p> <p>・ 希少生物の積極的な保全</p>	<p>① 健全な森林・農地の保全と活用</p> <p>② 様々な主体との協働による自然資源の活用・保全</p> <p>③ 豊かな自然環境の保全と共生</p> <p>④ 生物多様性の保全と生息域の維持・創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行計画 ①里山の保全と活用に関する施策の追加検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 森林環境保全に向けた、林業支援と森林環境税の活用</li> </ul> </li> <li>現行計画 ②食と生命を支える農地の保全と修復に関する施策の追加検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 農地の保全に向けた、農業振興(担い手の育成、耕作放棄地の解消、地産地消)</li> <li>- 環境負荷が小さい環境保全型農業の普及</li> </ul> </li> <li>自然とのふれあいに関する施策の追加検討</li> </ul>
			<p><b>現行計画の進捗</b></p> <p>○ 優良農地を維持する取組として、ほ場整備面積の目標を達成</p> <p>○ 森林を健全に保つ取組として、間伐面積の目標を達成</p> <p>△ 地産地消(農業振興)を図る取組として、地元の農産物を選択するように心がける市民の割合の目標未達</p> <p>△ 鳥獣による農林業等被害額の目標未達</p>			

環境分野	瑞浪市の環境特徴 [○:良い点・誇れる点、△:改善すべき点]			上位計画・社会情勢	課題	策定方針案
	環境状況 (既存文献調査結果)	市民・事業者アンケート調査	環境審議会委員意見			
2)生活環境 大気環境/水環境/騒音・振動/土壌・地盤環境/有害物質汚染/廃棄物など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大気環境、ダイオキシン類の環境基準達成</li> <li>○ 減少傾向にある可燃ごみの処理量、国・県より少ない一人一日当たりごみ排出量</li> <li>△ 減少する資源物の分別回収量と再資源化率、県の平均値を下回るリサイクル率の向上</li> <li>△ 土岐川における水質浄化(生活排水処理普及率、水洗化率の改善)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過半数の市民が空気のきれいさ、家の周りの静かさに対して満足と回答</li> <li>○ ほぼ全ての市民がごみの分別ルールに従い、規定通りの分別排出を実施</li> <li>※「ごみを分別ルールに従って仕分けて、リサイクルに出す」の実施率99%</li> <li>○ 事業所における廃棄物の削減や資源化の取組が定着</li> <li>△ ゴミ出し(分別排出等)のマナーに対する改善の必要性</li> <li>※不満足回答率が2番目に多い24%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ ごみの分別等について、「便利帳」に基礎調査報告書のデータを掲載し、市民への情報発信に活用すると良い</li> <li>△ ごみ減量や正しい分別のために、ごみ出しルールに無関心な市民の意識変革が必要。地域別に勉強会開催を要望</li> <li>△ 車からのポイ捨てが後を絶たない。罰則の強化が必要</li> <li>△ 焚き火が多い</li> <li>△ マナーを守り、リサイクル率を上げることや、将来的に焼却炉が変わり、プラスチックの完全なリサイクル化によって、可燃ごみを減らす</li> <li>△ 太陽光発電について自然災害誘発の恐れがあるため、規制が必要</li> <li>△ ごみの分別収集の改善が必要</li> <li>市民への指導やモデル地区の設定を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水質・騒音などの環境調査・監視</li> <li>・ 市内全域の水洗化、農業集落排水の公共下水道への統合</li> <li>・ ごみを減量する意識をもつよう啓発活動を推進</li> <li>・ 4R活動に対する啓発を推進</li> <li>・ 可燃物焼却施設及び不燃物最終処分場の適切な管理・運営</li> <li>・ 下水道の適切な維持管理などによる水質保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 良好な大気環境の維持</li> <li>② 身近な河川の水質汚濁の改善・負荷軽減</li> <li>③ 廃棄物の減量と資源循環の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の発生抑制と適正な廃棄物処理の推進に向けた「4R」を軸とした取組の普及・促進策の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- リフューズ (Refuse) : 断る</li> <li>- リデュース (Reduce) : ごみの排出抑制</li> <li>- リユース (Reuse) : 再利用</li> <li>- リサイクル (Recycle) : 再生利用</li> </ul> </li> <li>・ 大気環境、水質環境、その他生活環境に関する取組の整理</li> </ul>
		<p style="text-align: center;"><b>現行計画の進捗</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使用済小型家電回収品目の拡充に関する目標達成</li> <li>△ ごみの4R活動に取り組んでいる市民の割合の目標未達</li> <li>△ 資源ごみリサイクル率の向上、可燃ごみ処理量の削減目標未達</li> <li>△ 水洗化率向上に関する目標未達</li> </ul>				

環境分野	瑞浪市の環境特徴 [○:良い点・誇れる点、△:改善すべき点]			上位計画・社会情勢	課題	策定方針案
	環境状況 (既存文献調査結果)	市民・事業者アンケート調査	環境審議会委員意見			
3)快適環境 公園・緑地/歴史・文化/まち美化など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの歴史的文化的資源(工芸品や史跡、</li> <li>○ 伝統芸能など)</li> <li>○ 郷土の自然や文化を生かした多くの資料館・ミュージアム</li> <li>○ 市民が主体となったまち美化の取組(土岐川河川清掃など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大湫地区において8割の市民が「歴史的建造物や古い建物などの趣のあるまち並み」を誇りに思う点として回答</li> <li>○ ほぼ全ての市民がまち美化に関するルールを徹底</li> <li>※「空き缶やペットボトルのポイ捨てやペットの散歩中のフンの放置などを行わない」の実施率97%</li> <li>△ 身近な公園や緑地が利用しやすさ改善の必要性</li> <li>※不満足回答率が最多27%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 瑞浪市の豊かな文化や歴史といった素晴らしい環境をもっと活用し、子どもたちに広めたい</li> <li>△ 歴史的建造物や建物の再整備後のフォローが不足していないか</li> <li>△ 大型遊具が充実した公園がもっとあるとよい</li> <li>△ 高齢化に伴いボランティア不足。システムで補完が必要</li> <li>△ 増加する空き家が老朽化し、更地になると景観を損なう</li> <li>△ 地域環境保全のため、ペットの糞とのら猫増殖の対策が必要</li> <li>△ 文化施設の統合によって、拠点施設として機能の充実を図るべき</li> <li>△ 学芸委員増員や民俗文化財後継者の育成が必要</li> <li>△ 景観重点地区の指定が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然豊かな水辺環境の維持、憩いの場、交流の場としての整備</li> <li>・ 歴史、文化・芸術の普及活動</li> <li>・ 景観計画に指定した市全域の良好な景観の形成と保全</li> <li>・ 不法投棄防止</li> <li>・ 公園の適切な維持管理</li> <li>・ 地域特性に応じた公園の整備など公共空間整備の促進</li> <li>・ 陶磁器産業の情報発信と市内産業の振興</li> <li>・ 歴史・文化遺産の保全、観光等の交流の拠点として整備・活用</li> <li>・ 景観計画重点区域の指定、景観づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 歴史・文化的資源の保全・活用と次代への継承</li> <li>② 身近な親しみある公園・緑地の活用・維持</li> <li>③ 郷土景観の保全と活用</li> <li>④ 市民が主体となったまち美化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公園の活用と管理に関する施策の追加検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 地域拠点としての活用</li> <li>- 適正な維持管理</li> <li>- 水辺環境を活用した交流の場の整備</li> </ul> </li> <li>・ 歴史・文化的資源の保全と、景観、まち美化に関わる施策の整理 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 文化財・歴史的財産の保全</li> <li>- 郷土の歴史・文化に親しむ普及活動の推進</li> <li>- 景観の保全</li> <li>- 不法投棄の防止や空き家管理の徹底</li> </ul> </li> </ul>
		<p style="text-align: center;"><b>現行計画の進捗</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 里親制度の市道登録路線の目標達成</li> </ul>				

環境分野	瑞浪市の環境特徴 [○:良い点・誇れる点、△:改善すべき点]			上位計画・社会情勢	課題	策定方針案
	環境状況 (既存文献調査結果)	市民・事業者アンケート調査	環境審議会委員意見			
4)地球環境 地球温暖化対策、 再生可能エネルギー導入	<p>△ 脱炭素社会実現に向けた地球温暖化対策の強化</p> <p>△ 再エネ導入ポテンシャルに対する導入促進</p>	<p>○ 9割以上の市民が地球温暖化対策に取り組むべきと回答</p> <p>○ 市民が省エネ・節電の取組を9割以上の市民が実施</p> <p>○ 節電や廃棄物の削減・資源化の取組を8割以上の事業所が実施</p> <p>△ 公共交通機関の充実、次世代自動車への転換の必要性</p> <p>△ 地球温暖化対策の取組意義や成果、暮らし・事業活動へのメリットの周知</p> <p>△ 地球温暖化対策に資する先進的な設備の技術や製品の紹介、導入意義の周知促進</p>	<p>○ SDGs への取組を表明する</p> <p>○ 地球温暖化、再生可能エネルギーについて、日々、みんな考えていると思う</p> <p>△ 住宅の断熱性は温暖化対策に有益だが、費用面の課題がある。市民アンケートでは助成があれば導入したいという回答があり、快適性を実感する人が増えれば需要も伸びる可能性がある</p> <p>△ 公共交通機関の充実が必要</p> <p>△ 温暖化対策は必要だが、生活水準を下げることは抵抗がある。企業も利益を削減して対策することは死活問題である。補助金制度の充実を要望</p> <p>△ 太陽光発電は再生可能エネルギーとして注目されているが、製造時のCO2排出や設置の課題、廃棄物処理など様々な課題が存在する</p> <p>△ 公共交通機関の充実は困難であり、デマンド交通も利用も伸びていない。高齢者にも安全な次世代自家用車の提案が求められる</p> <p>△ 温暖化対策について、アドバイザー育成と市民の継続的な活動の評価が重要</p>	<p>・ パリ協定を踏まえ、地球温暖化対策計画に掲げられた各種施策等の実施</p> <p>・ 2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとし、2030年の排出量を2013年度比50%削減の高みを目指す</p> <p>・ 瑞浪市地球温暖化対策実行計画に基づく、二酸化炭素の排出量削減</p> <p>・ 再生可能エネルギーの利用支援、普及啓発</p> <p>・ 持続可能な公共交通の構築</p>	<p>① 野心的な目標達成に向けた省エネ活動の強化</p> <p>② 環境負荷の少ない移動手段への転換</p> <p>③ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの最大限の利用</p> <p>④ 森林整備を通じた吸収源対策の推進</p>	<p>・ R4年度に検討した「瑞浪市地域再生可能エネルギー導入目標」を踏まえた施策の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 省エネルギー活動の促進</li> <li>- 次世代エネルギーの活用</li> <li>- グリーンカーボンの活用</li> <li>- みんなで取り組む体制づくり</li> </ul> <p>※他の環境分野に関する取組は整合を図る</p>
		<p><b>現行計画の進捗</b></p> <p>○ 公共施設における二酸化炭素排出削減目標 達成</p> <p>△ 省エネルギー・新エネルギーへの取組をしている市民の割合の減少(目標未達)</p>				



環境分野	瑞浪市の環境特徴 [○:良い点・誇れる点、△:改善すべき点]			上位計画・社会情勢	課題	策定方針案
	環境状況 (既存文献調査結果)	市民・事業者アンケート調査	環境審議会委員意見			
5)環境保全 に取り組む 基盤づくり 環境教育・環 境学習/各主 体の環境保全 活動など	○ 瑞浪北中学校におけるスーパー エコスクールの導入	○ 約7割の市民が市と協働した環 境保全の活動に対して積極的な 姿勢 △ 環境保全の取組意義や成果、暮 らし・事業活動へのメリットの 周知 △ 市で行っている補助制度や、環 境保全に向けた具体的な取組 方法に関する情報の提供 △ 誰もが参加しやすい活動内容 や時間を工夫した環境保全活 動の開催 △ 事業者に対する環境マネジメ ントシステムの普及や温室効 果ガス排出量削減目標設定の 促進	○ 市内事業者の環境保全に対する 取り組みに感銘を受けた ○ 土岐川清掃のように市全体とし てひとつの目あてを持って活動 できるもの、また半年・一年のよ うに長期的環境教育の計画もで きると良いと思う △ 市民の環境への関心と協力を促す ためには、取り組みが必要 環境フェアなどのイベントに市民 参加を促す 幼少期からの環境教育も重要なた め、幼稚園などでの出前授業も一 つの方法となる △ 市全体での環境活動や長期的な環 境教育の計画が必要 アドバイザーの支援と人材育成も 重要 △ 市が積極的に推進し、企業や市民 の意識向上が必要。 協力基盤の構築も重要 △ 市民への環境保全活動や補助金に ついての情報提供が必要 アフターコロナでの活動再開も重要 △ 地区ごとに環境保全活動を推進す る委員を任命し、活動を展開する	・ ESDの考え方を踏まえ、環境 教育等促進法及び同法により 国が定める基本方針に基づい て持続可能な社会づくりの担 い手として必要な資質能力等 を着実に育成する ・ 環境フェアみずなみの開催な ど、地域住民の環境に対する意 識の向上 ・ 小中学校等における環境学習 の実施 ・ 地域や企業に対する里親制度 をPR、参加団体の増加 ・ 環境と共生した持続可能な地 域づくりの推進	① 環境教育の充実・拡大 ② 市民・事業者の環境保全活 動参加機会の充実 ③ 地域の環境活動を牽引・指 導するリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育・学習の促進に向けた、 場・機会づくりの促進に関する施策 の整理、検討</li> <li>各主体による環境保全活動の促 進に関する施策の整理、検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- After コロナにおける環境イベ ントの再開</li> <li>- 新たなコンテンツを使用した 普及啓発</li> <li>- 市内事業者の取組の水平展開</li> </ul> </li> </ul>
		<b>現行計画の進捗</b>				
		○ 自然観察会の開催件数の目標達成 △ 環境学習の機会創出（実施回 数）の目標未達 △ 環境フェアみずなみの入場者 数の目標未達				